

<b>分析テーマ</b>		防災・災害： 2) 災害時の交通対策
<b>分析内容</b>		交通ネットワークが切断された場合のリダンダンシー分析
<b>分析事例</b>	<b>現状での</b>	阪神大震災後に分析事例あり
	<b>行政サイド 事業者サイド</b>	交通量の分析例は少ない
<b>分析方法</b>		<p>検討方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の交通ネットワークの一部が切断（橋梁の崩壊、土砂による通行止めなど）された場合のリダンダンシー検証にPTデータを活用する。</li> <li>PTデータから算出される地域間自動車交通量（現況または将来）をもとに、交通量配分により検証を行う。</li> </ul> <p>分析フロー（例）</p> <pre> graph TD     A[PTデータ] --&gt; B[自動車OD交通量]     C[その他データ・資料]     B --&gt; D[配分交通量の推計]     E[道路ネットワーク (通常、切断)] --&gt; D     D --&gt; F[通常の道路網の場合の所要時間、 ネットワーク切断による所要時間差等をもとに検討]   </pre>
<b>必要データ</b>		PTデータ（現況自動車OD交通量、将来自動車OD交通量） 関連データ（道路ネットワーク）
<b>留意事項 方向性等</b>		
<b>参考資料</b>		検討の流れについては、 「阪神・淡路大震災に学ぶ-土木計画学からのアプローチ」阪神・淡路大震災土木計画学調査研究論文集 等に詳しい

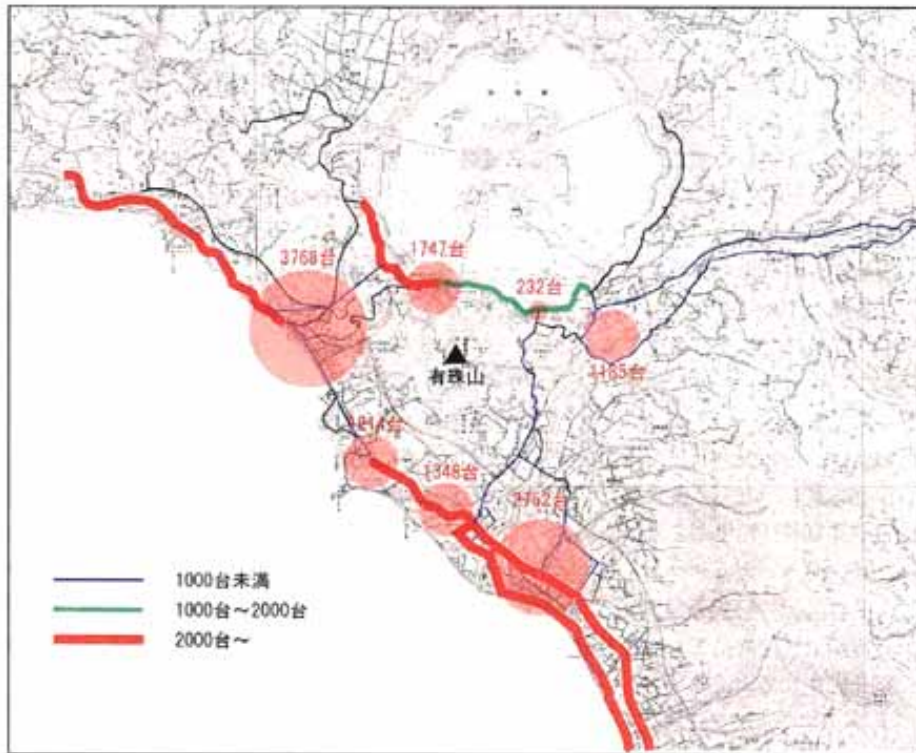
**(活用事例)**

<p><b>検討事項</b></p>	<p>災害時対応の防災道路の検討</p>
<p><b>検討地域</b></p>	<p>有珠山周辺</p>
<p><b>検討調査名</b></p>	<p>平成14年度室蘭圏都市交通体系調査</p>
<p><b>検討主体</b></p>	<p>北海道</p>
<p><b>背景・目的</b></p>	<p>活動火山対策特別措置法に基づく「緊急施設緊急整備計画」における人口、避難区域、避難道路網をもとに防災道路を検討する</p>
<p><b>検討方法</b></p>	<p>避難区域からの避難対象者は夜間人口、中間人口、観光客の人口を踏まえた上で想定。各市町村内の自動車は全て稼働するものと仮定。就業者の交通行動を踏まえた希望目的地選考による道路選択性を加味。</p> <pre> graph TD     A[避難施設緊急整備計画] --&gt; B[避難人口、避難ルート 避難区域]     B --&gt; C[有珠山周辺 市区町村夜間人口]     B --&gt; D[観光人込客数]     C --&gt; E[有珠山周辺 就業・非就業人口]     E --&gt; F[方面別希望避難地の決定]     D --&gt; G[平日]     D --&gt; H[休日]     G --&gt; I[交通機関別自動車台数]     H --&gt; I     I --&gt; J[観光客関連自動車交通量]     J --&gt; K[方向別避難経路の決定]     F --&gt; L[各避難道路への負荷状況]     K --&gt; L     L --&gt; M[問題点・課題の整理]     </pre> <p style="text-align: center;">図 有珠山周辺交通量の需要予測フロー</p>
<p><b>検討結果</b></p>	<p>有珠山周辺の人が安全、確実、及び迅速に避難施設まで移動するために必要な道路整備方策（避難施設までの交通容量の確保が必要な区間、代替的な避難ルートの必要性）が明らかになった。</p>
<p><b>事業展開 等</b></p>	<p>災害時に防災避難路として利用される可能性の高い「有珠から長和にかけての道路網」について、マスタープランの道路網への位置付け、「有珠山周辺防災まちづくり計画（平成14年6月）」に反映させている。</p>

## 分析結果の例

### (1) 災害時対応の防災道路検討結果

#### 昼間人口の動き



#### 夜間人口の動き

